

福祉 ぐんま

NO. 241
2012 夏号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- * X線検診車紹介・・・2
- * 苦情受付状況報告・・・3
- * 平成23年度事業報告・決算・・・4～5
- * ボランティア情報・・・6～7
- * 素敵な笑顔・・・8
- * 福祉の仕事さがしをお手伝いします！・・・8
- * 福祉まめ知識・・・8

大雄保育園
東宮 由佳さん
(関連記事は8ページに掲載)

 「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

新しくなった県X線検診車

～福祉施設入所者に対する結核健康診断の継続～

鮮やかな黄色のボディに身を包み、サイドには平仮名で「おぜ」の2文字。“全国ゆるキャラグランプリ2011”で堂々の18位に輝いた本県のマスコットキャラクター「2代目ぐんまちゃん」と水芭蕉のイラストをあしらったモダンな検診車が、3月24日(土)県庁行政庁舎前で、関係者に披露されました。

県X線検診車については、これまで2台が稼働していましたが、平成22年3月に県より関係福祉施設に今後の事業方針が通知されました。

通知では、検診車の老朽化と検査技師の減少に伴い、事業継続が困難なことから、平成22年4月1日からは1台のみの運行となり、平成23年4月1日からはX線検診車による結核健康診断事業は廃止され、今後は医療機関等による健康診断をお願いしたいという内容でした。

これを受けた県内の老人施設、身体・知的障害者施設では、たとえ検診料が値上がりしても構わないので、事業を継続して欲しいという要望が多く、こうした声がそれぞれの種別協議会(部会)を通して、県社協に寄せられました。

本会では、県経営者協議会(中沢丈一会長)に相談し、施設関係4団体との連名による要望書を平成22年7月21日に大澤県知事に提出。併せて、9月議会にも請願書を提出し、事業の継続をお願いしました。その結果、平成23年度の県当初予算で8,190万円の事業予算を獲得いただき、事業も継続となって、今回の新型検診車導入の運びとなりました。

ある施設長は、「これまでどおり、職員の手を煩わせることなく、利用者が車イスのまま安心して、X線撮影できるので大変助かります」と感謝しておりました。

なお、新しくなったX線検診車は伊勢崎市保健福祉事務所が運行管理を行います。

今後、県内各地を颯爽と走るX線検診車を見かけることでしょう。



納車披露式でのテープカット〔左から 下城県社協会長、大澤県知事、南波県議会議長(当時)、大林厚生文化常任委員長(当時)〕

群馬県福祉サービス運営適正化委員会

平成23年度 苦情相談受付状況

■苦情先

施設種類		件数
高齢者	特別養護老人ホーム	5
	通所介護事業	2
	居宅介護事業	1
	小規模多機能型居宅介護	1
	ショートステイ	1
	グループホーム	1
	老人福祉センター	1
	介護老人保健施設	1
	高齢者専用賃貸住宅	1
	小計	14件

施設種類		件数
障害者	障害者デイサービスセンター	2
	通所授産施設	1
	知的障害者更生施設	1
	知的障害者通所寮	1
	就労継続支援事業	1
	共同生活援助（グループホーム）	1
	相談支援事業	1
	地域生活支援センター	1
	精神科デイケア	1
	小計	10件

施設種類		件数
児童	保育所	4
	小計	4件

施設種類		件数
その他	社会福祉協議会	4
	行政	1
	介護タクシー	1
	その他	1
	小計	7件

計	35件
---	-----

■苦情申出人の属性

	利用者		家族		代理人		職員		その他		合計	
	苦情	相談	苦情	相談	苦情	相談	苦情	相談	苦情	相談	苦情	相談
高齢者	1	1	9	4	0	1	1	8	3	0	14	14
障害者	5	2	4	0	0	0	1	5	0	0	10	7
児童	1	0	3	1	0	0	0	2	0	0	4	3
その他	5	4	1	0	0	0	0	2	1	0	7	6
合計	12	7	17	5	0	1	2	17	4	0	35	30

平成23年度に委員会に寄せられた苦情は35件で、概要は次のとおりです。

苦情を種別で見ると、高齢者が14件でもっとも多く全体の40.0%、次いで障害者が10件、28.6%、児童4件、11.4%の順になっています。主な苦情内容は「職員の接遇」と「サービス

の質や量」で、全体の8割を占めています。

申出人の属性としては、家族からの苦情が17件で最も多く、次いで利用者本人の12件の順となっています。

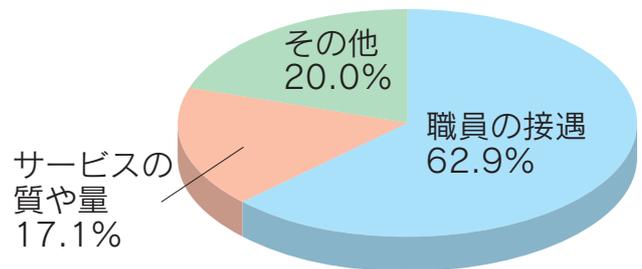
また、35件の申し出のうち、22件が匿名によるものです。利用者と事業所とはまだまだ対等

になっていないことが窺えます。

委員会の対応としては、相談・助言が21件紹介・伝達が10件、その他等が4件となっています。

また、苦情以外にも相談（苦情までにはいらないケース等）については、30件受け付けました。それぞれの種別・申出人の内訳は以下の表のとおりです。

■苦情内容



平成23年度事業報告・決算

本会の基本理念に掲げる「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会」の実現のため、活動推進計画に基づき、市町村社協、民生委員・児童委員、社会福祉施設、福祉関係団体、県・市町村行政等関係機関との連携の下で、各種事業を実施しました。また、東日本大震災の対応として、福島県内の災害ボランティアセンターの運営支援等も行いました。以下、その概要を報告します。

主な実施事業

住民による地域福祉活動の活性化促進

- ①市町村社協地域福祉活動計画の策定支援
 - ・地域福祉計画・地域福祉活動計画策定研修会の開催
64名参加
- ②住民支え合い課題解決事業
1社協指定
- ③住民支えあいセミナーの開催
214名参加
- ④福祉コミュニティネットワーク支援事業
3社協(4地区)指定
- ⑤市町村社協トップセミナーの開催
175名参加
- ⑥ふれあい・いきいきサロンの推進
 - ・サロン設置状況調査の実施
活動数 1,879カ所
 - ・ふれあい・いきいきサロン研修会の開催
中部・利根沼田ブロック

380名参加
西部・吾妻・東部ブロック
318名参加

・課題解決型サロンモデル事業の推進
認知症支援モデル事業・精神障害者支援モデル事業
各1社協地区指定

⑦歳末たすけあい運動の実施
⑧保護児童・交通遺児への就学援助金の給付

ボランティア・市民活動、NPO法人等による地域福祉活動の推進、福祉教育の充実

- ①ボランティア情報・相談コーナーの設置運営
月から金曜日午前9時から午後5時
- ②ボランティア等活動機材貸出事業
- ③社協ボランティアセンター担当職員研修セミナーの開催
34名参加
- ④協働によるボランティア・市民活動の推進
- ⑤ぐんまボランティアフェスティ

バル東部ブロックの開催
1,500名参加

⑥福祉教育(学童・生徒のボランティア普及事業)

・社会福祉協力校15校指定
・地域指定福祉協力校モデル事業3地区指定

・福祉教育セミナーの開催
66名参加

・「福祉教育プログラム集」の作成

⑦介護等体験事業
・体験申込大学等46大学、体験者710名、受入施設 222施設

福祉分野における防災・災害救援活動の強化

①県総合防災訓練への参加
・災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練の実施

②災害支援セミナーの開催
39名参加

③災害ボランティア活動支援研修会の開催 延べ4日間(南相馬市) 25名参加

④東日本大震災に伴う支援・災害ボランティアセンター運営支援

・福島県内(福島市、南相馬市、相馬市) 延べ616名派遣

・生活福祉資金緊急小口資金特例貸付への支援(福島県内) 延べ52名派遣

・県内避難所運営支援

4市町村
・救済物資の仕分け・積み込み作業に伴うボランティア派遣
7日間 延べ208名派遣

・避難所支援にかかわる託児等

のボランティア派遣20日間のボランティア派遣による支援活動
延べ40名派遣

⑤新潟・福島豪雨災害へのボランティア派遣による支援活動
魚沼市・三条市へ4日間
延べ123名派遣

⑥新潟豪雪への支援 柏崎市へ3日間 延べ13名派遣

低所得者・失業者等への生活支援の強化

①生活福祉資金貸付事業 貸付決定1,256件貸付決定額332,414,784円

②臨時特例つなぎ資金貸付事業 貸付決定44件 貸付決定額2,360千円

③要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業 貸付決定10件 貸付決定額51,573千円

④貸付事業等の債権管理の強化・償還指導の実施

⑤「生活福祉資金貸付基準」の策定及び説明会並びに関係機関連絡会議の開催 71名参加

⑥生活福祉資金貸付審査等運営委員会の開催

日常生活自立支援事業の推進

①認知症高齢者等福祉サービス利用支援事業にかかる援助体制の整備

・12基幹社協に一部委託
・利用契約締結数 23年度215件(累計1,960件)

②相談事業(障害者10番事業を含む)の実施

①福祉サービス運営適正化委員会
②福祉サービス苦情解決部会の開催 7回
③福祉サービス利用援助事業運営監視部会の開催 2回
④福祉サービス利用援助事業実施社協に対する訪問調査4カ所

福祉サービス運営適正化委員会

①福祉サービス運営適正化委員会
②福祉サービス苦情解決部会の開催 7回

③福祉サービス利用援助事業運営監視部会の開催 2回

④福祉サービス利用援助事業実施社協に対する訪問調査4カ所

⑤苦情相談の受付件数65件(苦情35件、その他30件)

⑥巡回訪問の実施 延べ30カ所の開催

⑦福祉サービス苦情解決セミナーの開催 315名参加

⑧事業者段階における苦情解決体制整備アンケートの実施

虐待や悪質商法被害の防止、早期発見・対応に向けた取り組み

①障害者に対する虐待防止、権利擁護の推進

・障害者110番事業の実施
相談件数 221件

②暴力や虐待を考える県民のつどい事業

・虐待(障害者・高齢者・家庭に潜む子ども)の虐待とDV防止セミナーの開催 3回491名参加

③心配ごと相談所中央センター事業 相談件数 49件、巡回研修18回開催

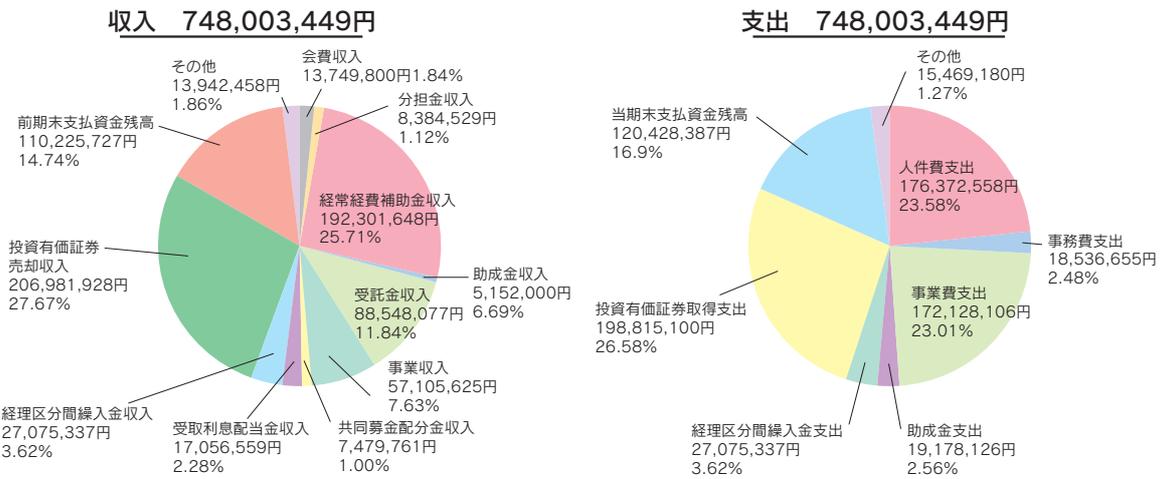
社会福祉法人・施設等の福祉サービス事業者への支援

①群馬県青年経営者会への支援
②ぐんま子育て支援センターへの支援

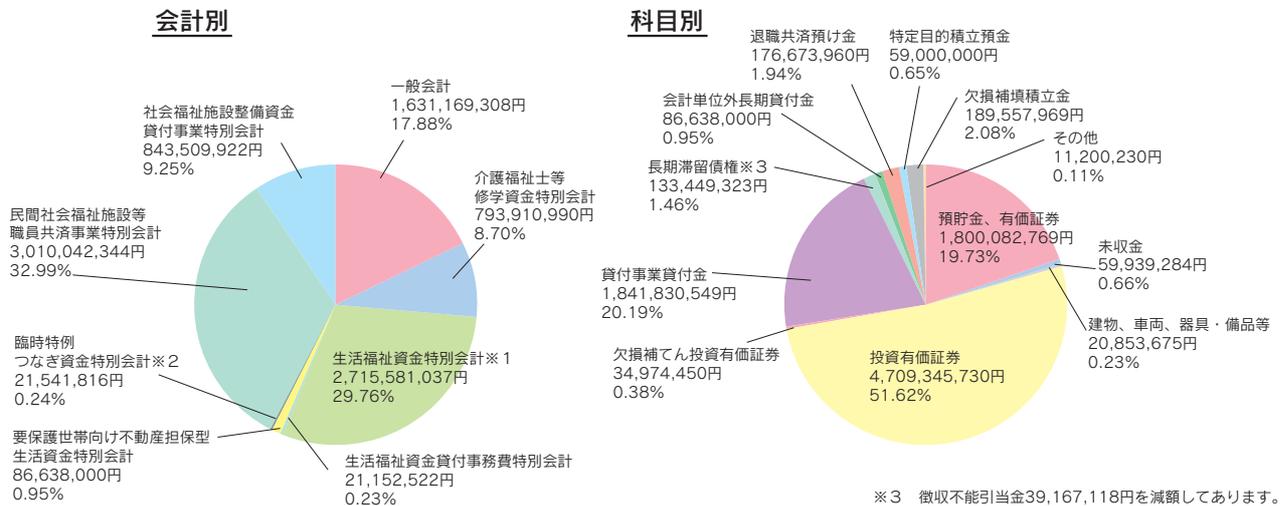
- ③ 障害者関係部会の再編に向けての取り組み
 - ・厚生事業部会再構築検討委員会の開催 4回
 - ④ 福祉サービス第三者評価の推進
 - ⑤ 法人・施設経営指導の実施
 - ⑥ 民間社会福祉施設整備資金貸付事業 貸付決定5件 貸付決定額44,400千円
 - ⑦ 群馬県社会福祉協議会民間社会福祉施設等職員共済事業の実施
 - ・433法人 964施設、15,759人加入
- 福祉サービスを支える福祉人材の確保への取り組みと人材育成への貢献**
- ① 福祉人材無料職業紹介事業の運営
 - ・新規求人数6,702名
 - ・新規求職者数2,979名
 - ・紹介数853名・応募数1,738名・就職数491名
 - ・「福祉マンパワーニュース」の発行年6回
 - ② 職場体験事業の実施
 - ・体験者 48名、体験日数 延べ22日
 - ③ 複数事業所連携事業の実施
 - ・事業所等への訪問15件、来所相談41件、電話相談154件 交付決定件数10ユニット
 - ④ 福祉・介護人材定着支援事業
 - ・アドバイザーによる定着支援相談の実施
 - ・相談件数 延べ112件
 - ⑤ 福祉・介護人材マッチング支援事業の実施
 - ・施設・事業所・養成校・ハローワーク等への訪問 延べ87件 求職相談 延べ1,018件 採用件数44件
 - ⑥ 介護職員等確保対策事業の実施
 - ・求人先開拓 延べ80件、求職者開拓 延べ66件、新規就労に向けた活動 延べ42件
 - ・関係先機関訪問等 延べ64件
 - ⑦ 福祉関係従事者に対する研修の企画・実施
 - ・直営研修コース11コース、延べ開催日数92日 研修参加者 延べ2,955名
 - ⑧ 介護支援専門員実務研修受講試験の実施
 - ・受験者数2,236名
 - ・合格者数338名
 - ⑨ 介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
 - ・貸付決定108名 貸付決定額157,950千円
 - ⑩ 福利厚生センター事業の実施
 - ・97法人・204事業所 加入職員数3,421名
- 広報活動の充実**
- ① 機関誌「福祉ぐんま」の発行年4回
 - ② ホームページの運用
- その他の事業**
- ① 創立60周年記念誌の作成
 - ② 社会福祉振興基金事業の実施
 - ③ 福祉バス「愛の募金号」の運行

■決算

1 一般会計資金収支計算書



2 資産構成 (総資産額9,123,545,939円)



※1 徴収不能引当金39,031,011円を減額してあります。
 ※2 徴収不能引当金136,107円を減額してあります。

※3 徴収不能引当金39,167,118円を減額してあります。

Hello! ボランティアセンター

みなかみ町社会福祉協議会ボランティアセンター

「広げようボランティアの輪～住みよいまちから住みたいまちへ～」。みなかみ町社会福祉協議会ボランティアセンターは、みなかみ町保健福祉センター内に設置しています。

センターの周りには、ペットボトルキャップがいっぱいです。平成21年度から町内の学校の協力により始まったエコキャップ運動によるものです。学校のみならず、町内の多くの皆さんにも協力の



ペットボトルのキャップを整理する町民のみなさん

の輪が広がってきました。これまでに約150万個のキャップが集まりました。皆さんの善意が世界の子どもたち1900人分の命を救うポリオワクチンに生まれ変わります。

また、各地区のボランティアさんが活躍されている「ふれあい・いきいきサロン」がこれまで24地区設置されました。

ボランティアセンターでは、町内のボランティアさんの支援はもちろんのこと、地域の皆さんの要望をいち早くキャッチできるような体制を目指しています。

ボランティア情報

福島県南相馬市はいま…

群馬県社協は、県内市町村社協とともに福島県内災害ボランティアセンター運営支援のため昨年3月19日～9月30日まで、うち4月13日～8月31日まで南相馬市へ職員を派遣していました。

現在、生活復興ボランティアセンターとして、地域の支援をすすめている南相馬市社協より近況をうかがいました。

南相馬市社会福祉協議会では、震災後より震災復旧・復興活動支援のため、災害ボランティアセンター及び生活復興ボランティアセンターの運営に携わってきました。

現在は、生活復興ボランティアセンターと生活支援相談員が連携し、仮設住宅にお住まいの方の支援を中心に行っております。ここまでは、他の被災市町村と同様の活動ですが、南相馬市の場合は、3分の1が警戒区域に設定されていたため、少し状況が違います。4月16日に警戒区域が解除になったことを受けて、5月18日より旧警戒区域内の復旧活動を行うため、もう一度復旧活動のボランティアさんを受入れております。

南相馬市は、原発事故の影響により復旧・復興が思うようには進まない状況ですが、たくさんの方のご支援をいただき、少しずつではありますが、前進しております。最後に、群馬県からもボランティアさんをはじめとする、たくさんのご支援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



旧警戒区域内の家屋で復旧活動を行うボランティア

社会福祉協力校 茨川市立豊秋小学校

1. 学校の概要

本校は、渋川・伊香保ICの西にある児童数約五百名、百四十年余の歴史をもつ小学校である。この歴史は、「子どもたちは学校を中心に地域全体で育てる」という豊秋地区に永く受け継がれている伝統と重なる。

地域の力は、登下校の安全サポートをはじめ、生活科や総合的な学習の時間、図書を読み聞かせや学校行事など、様々な教育活動を支えている。とりわけ福祉学習では、総合的な学習が始まって以来、中学年（特に四年生）は、市社会福祉協議会や関連団体・支援者から積極的に多大な支援を頂いている。

2. 主な活動内容

① 児童会活動

清掃やスリッパ揃え活動、挨拶・廊下歩行運動など。外部団体との関わりとして、緑の少年団活動やJRC活動、赤い羽募金や友情の絵はがき、書き損じはがきの回収等。

地域に関わる活動では、福祉友好会に運動会招待状を書いて引き、接待。六年リーダーのもとで三年生以上の児童の縦割小集団で、地域の特色を

四コース歩いて学ぶ伝統的行事「野山を訪ねる会」等。

② 学年ごとの活動

・低学年の活動
生活科学習を通して、ザリガニの採集と飼育、野菜や朝顔の栽培、動物ふれあい教室を実施。これらの活動を通して命あるものを慈しむ態度を育てるとともに世話や生活の様子を観察から、対象にはたらきかけ、それらから豊かなものを受け取らせることができた。

・中学年の活動

第三学年は、総合的な学習の時間に、高齢者とのふれ合い活動（高齢者疑似体験・介護老人保健施設「銀嶺」訪問・地域高齢者との交流会）を通して学んだ。活動に関心を示して取り組み、知識を身に付けてながら技術を向上させようと意欲的に取り組めた。

第四学年は、「知って友だち」という福祉体験学習に取り組んだ。まず親子で、車椅子操作体験、手話体験、アイマスク体験の三つの疑似体験やそれに関わる基本的な理解を学習した。聴覚・視覚障害、車椅子使用者の生活や願いについて、調べたり直接交流した

りして学んだ。二期には、障害があっても楽しく活動できる企画を工夫・思考し、活動計画を立て、交流会を開いた。三期はこうした学習の成果を、相手の立場の理解と自分ができることを中心に整理し、三年生に伝える学習発表会を行った。

・高学年の活動

児童会での自治的な活動をはじめ、通学班や運動会・野山を訪ねる会、課外活動（陸上・水泳・吹奏楽）での主体的な役割を果たした。他に米作り学習と世話になった地域の方々を招いて収穫祭。地域の歴史や自然の学習を通して人の関わりや願いを学んだり、平和推進や人権作文にも取り組んだ。

3. 三年の成果と課題

障害を持つ人の願いを知り、自分ができることや知識を活用して役立てることは、社会的な存在としての喜びでもある。多くの児童は、思い通りにならなくても、こんなこともできるかもしれないという



期待をもって、意欲的に関わろうとした。役立つこと・役立てることの喜びをもった小さな芽だ。

今後も、子どもの学びの意識に沿った豊かな体験活動を重視した構想をもとに、子どもの学びの丁寧な見取りから見えてくる姿から、気づきの質を高める指導を重ねていきたい。

ぐんま学生ボランティアネットワークで一緒に活動してみませんか？

ぐんま学生ボランティアネットワークは、ボランティア活動とおして学校を超えたつながりを作っていきたいという大学側、社会福祉協議会双方の思いの中、全国ボランティアフェスティバルと時を同じくして、平成18年4月30日にネットワーク組織を発足しました。現在も事務局をおく「ぐんまボランティア・市民活動センター」と協働しながら、長期の休みを活用した子どもの

居場所づくりや体験を目的とした「夏休み！子ども宿題塾」、「春休み！ドリームスクール（親子交流）」等を学生のアイデアをもとに企画・実施しています。一緒に活動に参加したいという群馬県内の大学・短大・専門学校等に在学している学生がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。
問い合わせ先
ぐんまボランティア・市民活動支援センター
TEL:027-255-6111 / FAX:027-255-6444
E-mail: vc@g-shakyo.or.jp

夏号表紙

素敵な笑顔

社会人6年目の東宮由佳さんは、桐生市広沢町にある大雄保育園で働く保育士です。たくさんのお園児と職員に囲まれて、楽しく賑やかな日々を過ごしています。

※このお仕事に就いたきっかけは？

年の離れた弟の面倒を見ていたことがきっかけで、中学生の頃から保育士になりたいと思っていました。短大入学後に今の職場でアルバイトを始め、働きやすい環境と先生方の暖かさに惹かれて、就職を希望しました。

※お仕事の内容は？

今年3歳児クラスを担当しているのですが、毎日みんなで集団遊びなどをしています。鬼ごっこや椅子取りゲームを通して、ルールが存在を理解できるようにするのが狙いです。園の近くにある茶臼山にも「年間15回を目標に登ろうね」と、子どもたちと一緒に頑張っています。登る度に時間が早くなるので、子どもの成長には目を見張りますね。

※子どもと接するときに心がけていることは？

子どもの目線に立つことです。それから、親身になって話を聞くこと。子どもでも納得するま

取材した日は強い風が吹いていましたが、とても素敵な笑顔を見せてくれました。学生時代はバスケット部に所属していたというアクティブな東宮さん。子どものお話を話すと、きのきとした表情が印象的でした。



で話すことが大事だと思うので、コミュニケーションやスキミングをたくさん取るようにしています。

※お休みの日は何をしていますか？

友達と買い物に行くことが多いですね。洋服が好きで、気に入ったものはつい買ってしまいます。買い物することがストレス発散にもなっているので、一石二鳥かな。それから夏は海、冬はスノーボード、と季節の遊びもしていますよ。

※これからの目標と、福祉職を目指す方へメッセージを。

一番は健康で、休まず仕事に行くことかな。今の職場は長く働く先生が多くて、出産してからも復帰する先生が多いんです。本当に働きやすい環境で、毎日感謝で働かせてもらっているのでも、私も結婚して出産しても働き続けたいと思います。保育の仕事は大変なこともあるけれど、子どもはかわいいし、接する中で喜びや楽しいことがたくさんあります。だから前向きに頑張っていきたいと思います。

福祉の仕事さがしをお手伝いします！

群馬県福祉マンパワーセンターおよび高崎市・太田市福祉人材バンクでは、福祉人材無料職業紹介事業を実施しています。ぜひお気軽にご利用ください。

福祉の仕事を希望する方は・・・

窓口にご来所のうえ、求職登録をしてください。

求人情報等を月1回ご自宅へ郵送する他、希望の求人があった場合、紹介状を発行いたします。

福祉施設等の従事者を募集するには・・・

最寄りの窓口で求人登録をしてください。インターネットでも事務所登録、求人登録ができます。

こんな事業も実施しています

求人事業所と求職者との就職面接会や求職者を対象とした就職支援セミナー等を実施しています。

窓口は県内に3ヶ所

○群馬県福祉マンパワーセンター

☎027-255-6600 FAX027-255-6040
〒371-8525 前橋市新前橋町13-12 (県社会福祉総合センター6階)

○高崎市福祉人材バンク

☎027-324-2761 FAX027-320-8378
〒370-0045 高崎市東町80-1 (高崎市労使会館1階)

○太田市福祉人材バンク

☎・FAX0276-48-9599
〒373-0853 太田市浜町2-7 (太田市福祉会館内)

パソコン版

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>

福祉のお仕事

モバイル (携帯電話) 版

<http://www1.fukushi-work.jp/cool/m/>



★ホームページ「福祉のお仕事」でも求人検索ができます。

福祉まめ知識

Q 「地域包括ケアシステム」とはなんですか。

A 「地域包括ケアシステム」は、地域住民のニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護、予防のみならず、福祉サービスを含めた

様々な生活支援サービスが日常生活圏域で適切に提供できるような地域での体制と定義されます。この「日常生活圏域」とは、「おおむね30分以内に駆けつけられる圏域」(中学校区を基本)を理想的な地域包括ケア圏域として定義しています。

介護保険法も地域包括ケアシステムの実現に向けて改正されました。(平成23年6月22日公布、平成24年4月1日施行、法律第72号)

編集/発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

〒371-8525 (専用郵便番号)
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター内
TEL 027-255-6033(代表)
FAX 027-255-6173
URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>
発行日 平成24年7月1日